

コスモス

草野皓一

暮れなづむ乳白色の空の下ふはふは立てり無垢のシラサギ

秋櫻の静まる土手に胡座かく潮の堰き止め音のみありて

遡上する穉魚のあたまに落ち水は遠きふるさと堰き止めの上

小魚のゆくもかへすもシラサギは堰き止め石になりすます夕

その人は我に似たると告ぐ娘 風に戯るコスモスを見ゆ

幼子と絲をたらしした武庫川のゆるき蛇行を遡りたり

野の路にゆれるコスモス摘む娘 我に一輪きみにいちりん

手のひらに君の摘むはな香りたち秋の空には動かぬ雲と

あの川の土手を歩けばおさげの日きみの手をひく夕焼け小焼け

